

第3学年国語科学習指導案

期 日：令和4年12月15日

時 間：第3校時

対 象：第3学年1組34名

学校名：〇〇立〇〇小学校

授業者：〇〇 〇〇 印

1 単元（題材）名

考えたことを伝えあおう。

2 教材名

「モチモチの木」

3 単元（題材）の目標

文章を読んで中心人物の性格を想像し、感じたことや考えたことを共有することができる。

4 単元（題材）の評価規準

観点	知識・技能 【知・技】	思考・判断・表現 読むこと【思・判・表】	主体的に学習に取り組む態度 【主】
単元 の 評 価 規 準	<p>○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使っている。</p> <p>【オ 語彙】</p>	<p>○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。</p> <p>【Cエ 精査・解釈】</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。</p> <p>【Cオ 考えの形成】</p> <p>○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。</p> <p>【Cカ 共有】</p>	<p>○言葉による見方・考え方を働かせながら、自分で方法を選択し、課題を解決しようとしている。</p>
学 習 活 動 に 即 した 具 体 的 な 評 価 規 準	<p>①様子や行動、気持ちの変化や性格を表す言葉に着目して、人物の心情や性格を想像したり、説明したりしている。</p>	<p>①豆太の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。</p> <p>②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の体験や既習の内容と結び付けて、自分の考えをもつことができる。</p> <p>③自分の考えを伝え合い、友達の考えと似ているところや違うところに気付いている。</p>	<p>①友達の考えや感想を読んだり、聞いたりすることによって、自分の考えを見直したり、深めたりしようとしている。</p> <p>②自分に合った方法を選び、課題を解決しようとしている。</p>

5 指導観

(1)単元（題材）観

「モチモチの木」は豆太が臆病で弱虫な人物として描かれている前半部と、じさまのために勇気を振り絞って医者と呼ばれに行く後半部が対照的に描かれており、人物の心情の変化を考えることに適した学習材であると言える。一方で、医者と呼ばれに行くことができた豆太も、最後には元の臆病な姿を見せており、豆太の変化をどのように考えるのか、意見が分かれるところであろう。こうした学習材の特徴を生かし、読みの多様性をもとに、感じたことや考えたことを伝え合い、共有することを狙っていきたい。

また、子ども達が、成長していく豆太に感情移入しやすく、自分の経験を重ねながら、人間の心の底にある深い思いや作品から受け取ったメッセージについて意欲的に考えを形成できる教材である。

(2)児童観

これまでの文学的文章の学習では、課題を設定することを中心に学習をしてきた。文章を読み、疑問に思ったことをもとに、課題になりそうなものを考えるという学習を経験している。「教科書に書いてあることをもとに解決できそうなこと」を探すという視点で課題を立てるように指導しているが、自力で課題を設定することはまだ難しく、学級全体で課題の吟味をする必要がある。

また、前単元「サーカスのライオン」では、中心人物がどのような人物であるのか学習し、中心人物の心情の変化を読み取る学習をしてきた。

(3)指導観

本単元では、叙述をもとに登場人物の性格や気持ちの変化を読み深め、自分の考えをまとめられるようにする。そのためにまず初読の感想をもとに交流し、疑問のなかから課題を設定する。次に、場面と場面を比べながら各場面の中心人物の気持ちを心情曲線にまとめ、それをもとに「豆太はおくびょうなのか？勇気がある子なのか？」を検討する。振り返る段階では「豆太しょうかいカード」の作成を通し、物語全体を通して読み深めた豆太像について考えをまとめ、初読から変容した読みの深まりを実感することができるようにする。